

組織

会長	加賀谷 政広	(岩見三内小・中学校)		
副会長	鎌田 悟	(秋田北中学校)	大野 一紀	(下北手小学校)
	松田 清悦	(秋田南中学校)		
事務局	渡部 英明	(勝平小学校)	菊地 有希子	(日新小学校)
	中尾 裕子	(御所野学院中学校)		
幹事	小林 さおり	(秋田南中)	佐藤 水季	(雄和中学校)
会計	佐藤 廣子	(勝平中中学校)		

主な事業

大森山動物園
第43回親と子のふれあい写生大会
(大森山動物園と共催：審査日8月22日)

クロッキー展：市内各小学校
(審査・展示：各小学校で)

秋田県児童生徒美術展
秋田市作品募集・審査・展示
(審査11月27日～12月9日)
(展示1月1日～1月31日)

研究会の記録

親と子のふれあい写生大会

毎年7月下旬に大森山動物園との共催で行われている大会である。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により開催が危ぶまれる中、5月に行われた実行委員会では中止も含めて検討されたが、毎年楽しみにしている子どもたちが大勢いることから、実施方法を工夫して開催することになった。原則園内では、簡単なスケッチや写真・動画撮影のみとし、他に動物園の公式 SNSなどを参考に自宅で制作してもらうことにした。また、立体の部は中止した。作品は8月1日～9日までの9日間に動物園事務所へ直接持参してもらい、8月22日(土)に担当の造形会員が園内にて審査を行った。例年よりは少ないものの400点以上の応募があり、審査は難航した。いつもは会員同士で話し合いながら審査していくのであるが、このたびは小松園長にも参加していただいたことで、私たちの知らない動物の行動や特徴などを知り得る機会にもなり、作品を観る目を養う有意義な研修の場となった。

秋田県児童生徒美術展(秋田市)

例年秋田市の審査は、全造形会員が会場校に集まり、学団ごとの担当を決め審査を実施していた。しかし、今年度は一堂に会することが困難であることから、各校で作品画像を送信し、会員各自が画像を観ながら審査をした。

具体的には、募集の際に写真データによる審査であることを明記した上で作品募集を図り、各校で応募作品を写真撮影してデータ化し、事務局が準備したパワーポイントソフトに添付してもらって全ての出品画像データを集約した。審査の実際は、事務局で全会員を校種や学団ごとに割り振り、各自がそれぞれのパソコンで集約された画像データを観ながら、予め定めた審査基準に照らしてよいものを選び、その集計結果で賞を決定した。審査後の作品展示は、御所野イオンモール秋田ショッピングセンターに協力を依頼し、入賞作品を3つのグループに分けて、1月1日～31日の期間、セントラルコートの大規模ビジョンヘタイムテーブルに沿って映し出してもらった【写真】。大画面で観る作品はどれも迫力があり、自分の作品の順番を待っている親子連れの姿も見られ、映し出された作品を満足げに観ている様子が印象的であった。

